

日本のGAPの今

農産物の生産管理手法GAP。食の安全性に対する消費者ニーズは当然高いが、その保証となるGAPはまだまだ普及途上にある。今回の特集Part1では、JGAPを推進してきた武田泰明氏にインタビュー、Part2ではJGAPを導入した生産者取材した。GAPの動向をさぐるとともに、使いこなすために役立ててほしい。



図1：日本で使われている様々なGAP

種類	運営主体	説明
JGAP (JGAP Basic)	 (一財)日本GAP協会 登録番号 123456789	<ul style="list-style-type: none"> 日本の農業界と流通業界が作成 青果物、穀物、茶、畜産 日本語、英語、中国語、ハングル語 第三者による認証を実施
ASIAGAP (JGAP Advance) ※2017年8月施行	 (一財)日本GAP協会 Reg.123456789	<ul style="list-style-type: none"> JGAPにGFSIの要求を追加。 GFSI承認の国際規格
GLOBALG.A.P.	FoodPLUS GmbH(ドイツに本部を置く非営利組織)	<ul style="list-style-type: none"> 欧州の流通小売りの大手企業が主導で策定した取引条件としてのGAP 第三者による認証を実施
各都道府県のGAP	各都道府県	<ul style="list-style-type: none"> 各都道府県が独自に定めたGAP 一部の都道府県でのみ第三者認証を実施
JAグループのGAP	JA、経済連	<ul style="list-style-type: none"> 各JAが独自に定めて取り組むGAP
適正農業規範/農産物品質保証システム	日本生活協同組合(産直事業委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 生協の「産直」商品を主な対象としたGAPの基準 生産者自身による点検と生協の二者監査を実施

(農水省資料を基に加筆)

JGAPとは

農業において主に食品安全、環境保全、労働安全など持続可能性を確保するための生産工程管理の手法。管理点(管理が必要な項目)に対して、120項目以上の適合基準(適切な農場管理のあるべき状態)が定められている。適合基準に含まれるものとして、栽培・収穫・出荷時などの管理、衛生管理や労働安全などの管理、土・水・農薬・肥料などの管理などがある。

JGAP認証には個別審査と団体審査があり、個別審査のプロセスは次のとおり。

- ①「JGAP 農場用 管理点と適合基準」を理解する。
- ②「JGAP 農場用 管理点と適合基準」に基づく手順を構築し、運営する。
- ③自己点検を行ない、改善すべき点を改善する。
- ④JGAP審査・認証機関に審査を申請する。
- ⑤管理点ごとに「適合」「不適合」「該当外」で審査され、「不適合」があれば、後日、生産者が改善して報告書を送る。判定審議の結果、合格基準を満たせば認証が与えられる。

Part1

GAPは道具だ 自らのために使いこなせ

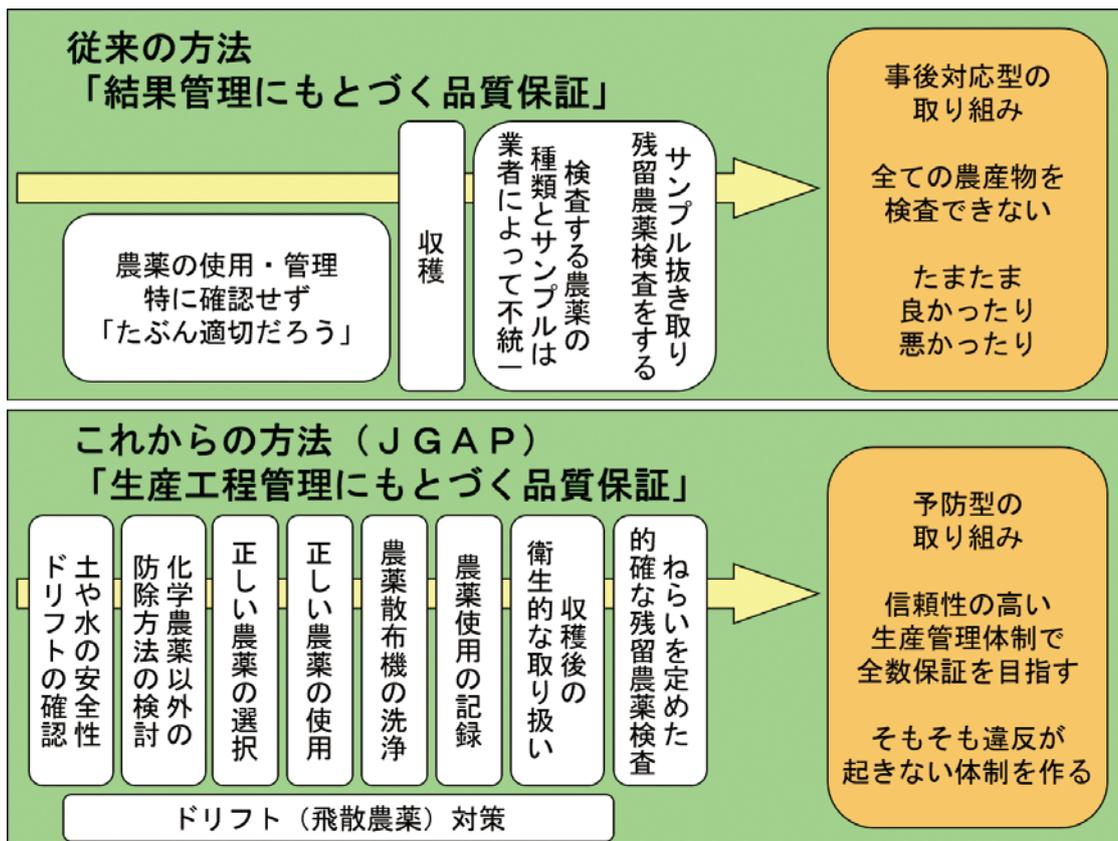
武田 泰明氏（認定NPO法人GAP総合研究所 専務理事）
インタビュー／昆 吉則（本誌編集長）

**安全規格を欧米に
握られてはならない**

昆吉則 武田さんと初めてお会いしたのは日本GAP協会が設立された2006年でした。秋葉原にあった事務所を訪ねたのが最初です。その日本GAP協会の事務局長も5年前に退任され、今は別の立場でGAP普及の取り組みをされています。日本国内のGAPをめぐる発展と混乱の歴史はおいおいかがうとして、まずは武田さん自身のGAPとの出会いから教えてください。

武田泰明 2004、5年頃の話です。当時私は総合商社の社員として中国・青島のリンゴジュース工場の品質担当を任されていました。その工場は世界最大のリンゴジュース工場だったので、あるとき残留基準以上の農薬を検出。原因は原料のリンゴでした。使っていない農薬を不適切な時期に使っていたのです。品質担当の私は、中国のリンゴ農家に正しい農薬の知識や使用方法を勉強し実践してもらったところ、検出される残留農薬は確実に減少していきました。残留農薬問題が終息に向かいつつあるときに見たのがEUREP G.A.P. (現GLOBAL G.A.P.、以下「G.G.A.P.」)の基準書で、「自分たちが実践した対策はGAPのや

図2：農産物の品質保証方法



り方とはほとんど同じ」だったことに初めて気づいたんです。帰国後、残留農薬問題を抱えているのは国内も同じだと思っていたの

で、日本の農家・農場事情を反映させた「JAPAN GAP (JGAP)」を作成し、その導入・普及を図りたいと考えていました。GAPを取得した

PROFILE 武田 泰明



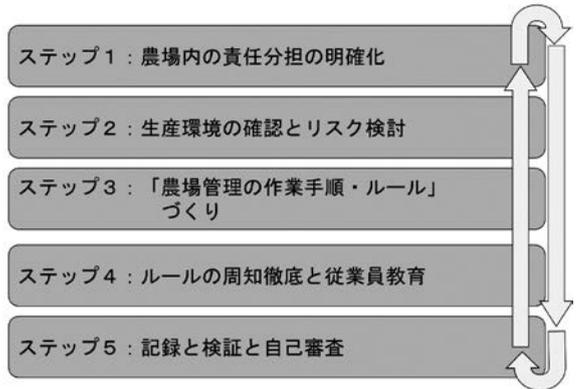
1976年生まれ、北海道帯広市出身。筑波大学大学院卒業後、商社会社勤務などを経て、日本GAP協会事務局長に就任。退任後の現在はGAP総合研究所（東京都千代田区）専務理事。茨城県の農業生産法人(株)つくば宵農なども経営する。今年3月にはGAP認証素材を活用したレストランを東京銀座にオープンした。

先駆者、農業経営者の有志たちとGAPの勉強をしながら準備を進め、総合商社にも話をしたのですが、「商社のビジネスにならないから」という至極真っ当な理由で断られました。それで会社を辞め、NPO法人日本GAP協会の設立と同時に初代事務局長に就任しました。

昆 協会の設立当初はいろいろな事情が重なって運営に苦労され、理事長が早期に辞任するなど多くの混乱があったようですね。

武田 まだ組織として固まっていなかったし、理事たちの間でも何のため誰のためのGAP導入・普及かという大義がしっかりと共有されていなかったようです。転機を迎えたのは設立3年目の2008年です。適切に管理されたGAP認証農場から調達したいというバイヤーのニーズもあって、生協やダイエー、イオン、イトーヨーカドー、CGCとい

図3：JGAPによる品質管理の構造



った流通業が協会に入会しました。その時期に、3代目の理事長として高橋正行元農水事務次官が就任したんです。設立間もないNPOにはふさわしくない大物でしたが、もちろん天下りではありません。高橋さんは在任中無報酬で、経費精算でさ

え一度もしませんでした。

高橋さんは「日本の農業界はGAPを放置したままにしていると、安全性の基準を認める権利を欧米に握られ、やがて国産の安全神話を根底から覆されてしまう。日本の農業・農家事情を反映した規格を育てていかないと後で泣きを見る」と直感され、理事長に就任してくれたのです。

昆 高橋理事長からはどんなことを学びましたか。

武田 高橋理事長は2009年に亡くなるのですが、事務局長として一番勉強になったのは、モノの見方、問題への対応でした。私が小手先の対策を提案すると「JGAPは横綱になるつもりじゃないのか。だったら横綱相撲を取れ」と諭されました。王道の大切さを学びました。

JGAPかGGAPかの 不毛な対立を超えて

昆 日本のGAPをめぐる混乱の要因として、日本の生活実態や文化、農業・農場の実情に合わせたJGAP派と、GGAP派との対立が挙げられます。武田さんは以前、弊誌のセミナーに講師で来ていただいたときに「国際柔道連盟の理事に日本人がいないため、ルール変更に関与できない」という例え話をして、GGAPなどヨーロッパ農業の規格に呑

み込まれるリスクを説かれました。**武田** GGAPの規格自体はいいものだと思いますし、ヨーロッパ型の大規模農業が可能な北海道の農場などでは機能すると思います。ただ、その他の規模が小さく、大型設備もない農場ではやはり日本の実情に合った規格が必要だというのが私の実感です。

改めてJGAP派とGGAP派の対立を歴史を踏まえて説明しますと、高橋理事長の時代、JGAPはGGAPと同等性認証されていました。正式にはApproved Modified Checklist方式のベンチマークと言いますが、JGAPの基準書はGGAPと同等と承認され、農場はJGAPに取り組み、GGAPの審査機関が審査することでJGAPとGGAPの認証を同時に、しかも安い費用で取得できる仕組みでした。しかし、同等性認証は2013年に解消されました。

昆 なぜ解消されたのですか。

武田 2012年頃、日本のGAP普及の主導権を握るためにGGAPを担ぐ一派が現れ、農水省や小売業、農業メーカー、審査会社を巻き込んで、同等性認証を解消するようGGAPの本部に何度も働きかけを行なったからです。彼らにとって、JGAP經由ではなく、農家に直接G

A Pをやらせることが重要でした。G G A P 認証費用はドイツでは年間5万円程度ですが、日本では30万円ぐらいで不当に高止まりしています。J G A P のG G A P 同等性認証が解消されたことは、日本の農家にとって大損でしたね。4分の1程度の安い費用でG G A P 認証が取れていたんですよ。

この5年を振り返ると、日本でG G A P で儲けたのは農家ではなく、コンサルタントや審査会社だけじゃないでしょうか。本当は農家が豊かになるためにG G A P は誕生したはずなのに、日本の一部の人にシノギの道具にされましたね。

昆 その後、武田さんたちはJ G A P の管理方法をアジアに拡大させたASIA GAP (A G A P) でG F S I (世界食品安全イニシアチブ) 承認を取るという戦略に打って出ました。

武田 私たちの目標はあくまで日本の農業界の意見を世界に発信し、農場管理基準の国際的な流れに影響を与えることでした。そのために何をすべきか思案していたところ、国際農業規格の世界で新たな動きができてきたことに気づき、そこに目をつけました。

その主要な舞台がパリに本部を置くG F S I という国際食品団体で

GAP認証を使いこなす時代に

JGAPやASIAGAPも活用しています。日本が主に農産物を輸出している台湾・香港・シンガポールでもGAP認証を求めるバイヤーが増えはじめています。

日本発の国際規格として、2018年からASIAGAPが本格的に普及しはじめました。GFSI承認を持つASIAGAPは、世界数百社のバイヤー企業が、信頼できる農場の目印として使いはじめています。

GAPは認証の話が出やすいですが、必ずしも認証を取ることだけがGAP導入ではありません。JGAPのように無料で一般公開されているGAPを活用し、自らの農場管理を体系的に見直していくことが重要です（「GAPをする」と農水省は名付けています）。一方でバイヤーのなかには、東京オリンピックのようにGAP認証を調達基準としてきているところがあり、そのような販売先と信頼関係を深め継続的な取引をしていくために、自らが良い管理ができている農場であることを表現するGAP認証に取り組んでいくことも農場・産地の経営戦略として検討したらよいかと思います。

日本の農業者の管理レベルは比較的高いため、実際に取り組めばGAP認証を取ることはそれほど難しくありません。GAP認証に取り組む過程で農場・産地の管理改善が図られ、さらに信頼できる産地であることを国際的にもアピールできることから、今後の農業や農産物流通の業界ではGAP認証が当たり前のものになっていくのだろうと予想されます。日本の農家やJAが一日も早くGAP認証を使いこなすようになることが大切です。（武田泰明）

GAPとはGood Agricultural Practiceの頭文字を取ったもので、日本語に訳すと「良い農業のやり方」となります。一般的には、GAPは冊子の形になっており、農家が活用する農場管理の基準書です。GAPの基準書は、食品安全や環境保全、労働安全を守りながら農産物を生産するために“最低限押さえるべき農作業・管理のポイント”がまとめられています。2007年ごろから本格的に日本の農業現場でも普及が始まり、自らの農場管理を体系的に見直すための道具として、全国の農業者が利用しはじめています。

最近では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの選手村で使用される食材の調達基準でもGAP認証（JGAP、ASIAGAP、GLOBAL G.A.P.等）を取得した農場であることが義務化されました。同時期に、大手小売業や食品・飲料メーカーがGAPの導入を産地に求めるケースも増えてきました。バイヤーの関心事は食品安全だけではなく、環境や人権にも拡大しています。GAPが導入された産地は「信頼できる産地」として優先的に取引を求める流れができてつつあります。

GAP認証は、日本国内のバイヤーが求めているだけでなく、海外のバイヤーも取引基準として求めてきます。例えばヨーロッパのバイヤーはドイツのGLOBAL G.A.P.を農家に求めてきますし、米国のバイヤーはPrimusGFSやSQFの認証を産地に求めてきます。米国バイヤー企業のなかでも、日本にも進出しているコカ・コーラやコストコは、

す。G F S I は食品や農場の認証制度が信頼に足るものかどうかをチェックする格付け機関で、G F S I の格付けが悪いとその認証制度の信頼性が低下する仕組みでした。つまり、G G A P の評価もG F S I の格付けに左右され、G F S I の台頭により

G F S I が各種G A P 認証制度に国際規格かどうかのお墨付きを与える

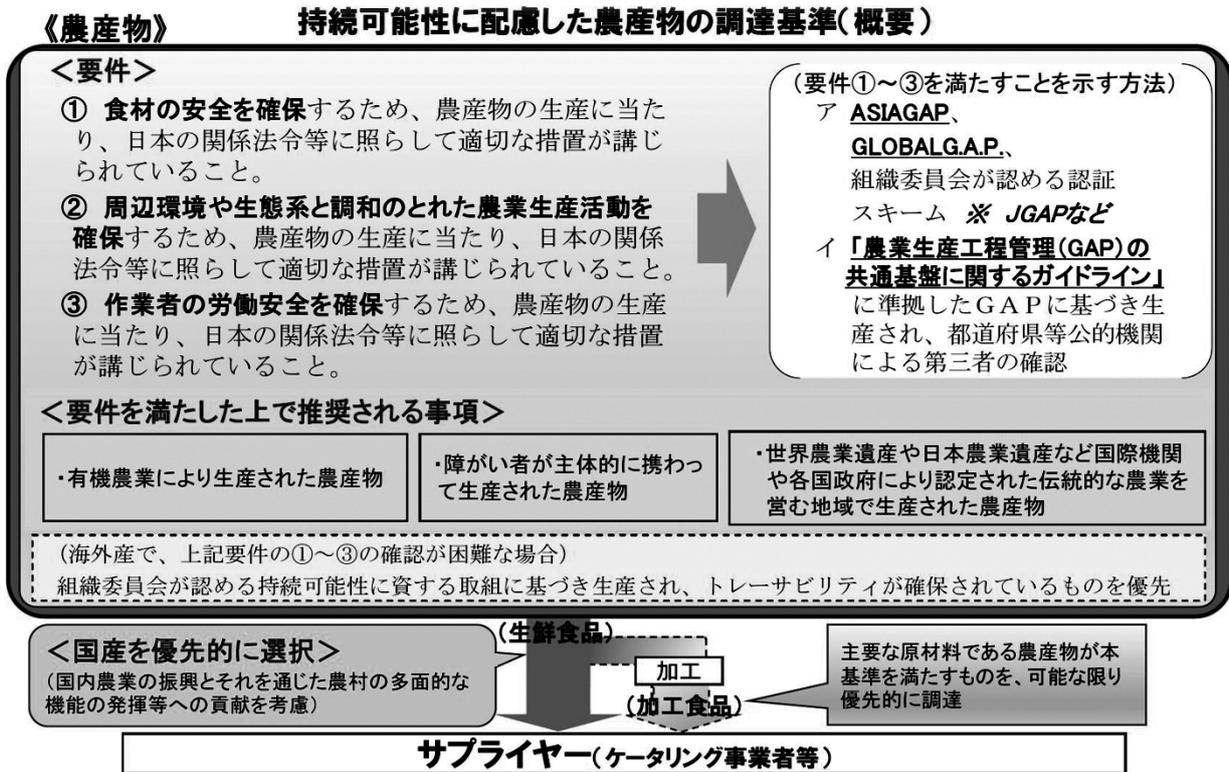
形になっていったのです。G G A P が世界のG A P の頂点にいる時代は終りました。今はG F S I が頂点に

必要要素を加えたA G A P 規格の

G F S I 承認という目標を掲げ、そのため財団法人へと衣替えし、本格的にG F S I 承認に向けて動き出しました。A G A P がG F S I 承認を取ったのは2018年です。日本

の普及が始まっています。昆 財団法人化したのは2015年

図4：2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達基準



出典：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会作成資料

※ 農林水産省追記：JGAPのほかに「有機JAS認証の審査項目に加えてGAPガイドラインの差分項目を確認する方法」などがある。

で、武田さんは2014年末で事務局長を退任されました。なぜですか。

武田 その頃の協会はAGAPのGFSI承認に向けた動きを本格化し、JGAPの普及にも注力しています。とはいえGAP取得農場は当時まだ1000くらい。もっと数を増やすには民だけでなく官民一体となった取り組みが必要で、財団法人化はそのために必要でした。財団法人化のタイミングで事務局長を自ら退いたのは、日本のGAP普及の主導権を握るためにGAPを担ぐ一派との対立の最前線に長くいた自分が彼らの目の敵になっており、JGAPの不毛な対立の遺恨を引きずってしまうと考えたからです。

幸い、天下りではない元農水官僚の優秀な職員が協会にいたので、彼に後任をお願いしました。高橋さんの座右の銘である「捨ててこそ」にも影響を受けましたね。自分が事務局長の座を捨てることが、JGAP・AGAPを純粋な形で発展させることになると思いました。

昆 JGAP派とGAP派の対立が起きた背景には何があったと思いますか。

武田 一つは日本人のメンタリティーの問題でしょう。日本人は「欧米では」という枕詞に弱い。農業界に限らず、欧米がいつでも手本で、英語

ができて「欧米ではの出羽守^{でわのかみ}」がこの国を動かしてきたのは歴史的な事実ですから。それでヨーロッパのGAPという出羽守を担げば、日本のGAP普及の主導権を握れると考える人たちが出てきてしまった。

不毛な争いをするより、JでもGでもどちらでもいい。この間の対立を経験した私はそう思います。「GAP認証を取得したことで売上が伸び、販売先が増えた」「誇りの持てる農業になった」「代替わりを迎えたときGAP認証を取得していたおかげで農場管理のマニュアル化ができていて継承が容易だった」。こういった成功事例を一つひとつ積み上げていくこと。そのお手伝いをするのが自分の次のステージだと2013年頃に実感しましたね。

オリパラの食材調達基準にGAPを採用

昆 そのための新たな場になるのが2015年に設立したGAP総合研究所(GAP総研)ですね。

武田 そうです。GAP総研はあらゆるGAPに対して中立的な認定NPO法人として、JGAPとAGAPとGAPの導入指導を全国の農場に対して行なっています。現在は年間約1000件の指導、年約100回の研修をしています。GAP総

図5：JGAP導入にかかるコストの例
(茨城県の露地野菜農場、個別認証)

内容	1年目	2年目
残留農薬検査費用(200項目一斉分析)	32,400円	32,400円
水質検査(飲用井戸水13項目)	8,100円	8,100円
GAP指導 ※東京のコンサル会社に丸投げしたケース 216,000円(54,000×4回) ※普及指導員から指導を受けたケースでは無料になります ※自分で自己学習(研修受講等)することで、コストダウンできます	※	0円
農場改修—農産物取り扱い施設の防虫対策	141,568円	0円
備品購入—農薬保管庫	25,000円	0円
備品購入—掲示物用ラミネート機	5,000円	0円
審査費用(JGAP 青果物 2016)	73,481円	73,481円
計	285,549円	113,981円

研を設立するだけではなく、GAPが理想的に導入された農場づくりを目指して、2015年1月からつくば市で農業経営を始めました。金をかけなくてもGAPはできるので、古い農場・設備なのに押さえるべき点はしっかり押さえて農場管理しています。

昆 2020東京オリンピック・パラリンピック大会の選手村食材調達基準にJGAP、AGAP、GGAP、都道府県GAPの認証取得が求められることが決まりました。GAPの普及にとって追い風ですか。

武田 そう思います。東京五輪に食

材を納入できれば、孫子の代まで誇れる一生に一度の名誉ですし、納入れたことで得られる信用は言ってみれば皇室御用達のようなもので、末代までの誇りになるでしょう。

昆 GAP認証が必要になったことで、食材調達の供給量が不足するのではないかとという声も聞かれます。

武田 例えば選手村で必要とされるキャベツの量は約40t程度なので、供給不足の心配はまったくありません。その意味で供給の絶対量という点では、金額的に大きいビジネスとはいえないことも確か。名誉や信用獲得の側面が強いです。

昆 世界最大級の国際スポーツ大会である東京五輪の食材調達基準に合わせて、GGAP派の識者からまたぞろGGAPこそふさわしいといったJGAP批判が飛び出しました。

武田 日本人の欧米コンプレックスは強烈ですね。欧米のものは国際規格で、日本のものはすべてガラバゴスと批判することで、自らは国際派だと悦に浸る自称識者のなんと多いこと。それぞれのGAP基準の中身も見ず、実際の流通企業や食品メーカーの採用状況も見ず、誤った情報を語るにわかGAP評論家がたくさん現れましたね。残念ながら今後この構図は繰り返されるかもしれません。この点について私は諦めに似

た感情を持っており、欧米教みたいなものですから、まじめに対応するのは時間の無駄と思っています。

それよりも、GAP総研の設立の思いでもありますが、GAPをやっけてよかった、GAPを使いこなし豊かな農業経営ができるようになったと思う農家を一人でも多く増やしていくことに私は関心があります。そのためには、消費者にもGAPを知ってもらいたいですね。

昆 GAPに関しては私も含めて識者の知見が不足していたり偏ったりしている部分があるようです。例えば「アニマルウェルフェア」の観点から養鶏のケージ飼いは基準外といったことも聞きますが、実際はどうですか。

武田 GGAPは異なる基準になっていますが、国際的なガイドラインを定めるOIE(国際獣疫事務局)の管理指針は平飼いではありません。JGAPはOIEの指針に合わせています。アニマルウェルフェアはとくに文化や宗教とも絡んでくる問題なので、欧米の妄信は避けたほうがいいですね。

昆 なるほど。中国や韓国でのGAP普及はどうですか。もう20年ほど前のドバイ視察で、中国人や韓国人の農業関係者がGAP導入に熱心で驚きました。

武田 とくに中国人はGAP認証を商売の道具と割り切っているから、GAPで売れるとなると飛びつき、時代が変われば瞬時に乗り換える傾向が強い。中国ではJGAPの普及はまだまだで、AGAPにもチャンスはあると思いますので、今後おもしろいですね。

昆 GAP調達に関するバイヤーサイドの動きを教えてください。

武田 主なところを挙げると、イトーカドーとローソン、コカ・コーラはJGAPとAGAPを主に使い、イオンはGGAP、コストコやオリンピックはJGAP、AGAP、GGAP、CGCはすべて使う状況でしょうか。

昆 武田さんとしてはどういう農家を対象にGAP認証の取得を勧めますか。

武田 GAPに取り組むこと、認証を取ることは分けて考えたほうがいい。すべての農家にGAPを勧めてはダメ。なぜなら農薬の残留基準違反や労働事故を起こしたい人はいないと考えているからです。そのうえで、どのGAP認証を導入するかについては、今の売り先や今後の営業戦略によって選ぶといい。

昆 GAPは「Good Agricultural Practice」つまり「良い農業の方法」のことで、農場として健全化するた

めの道具と考えてほしいですね。もう引退されていますが、茨城県牛久に高松求さんという90歳近い篤農家がおられます。ご夫婦二人だけで農業をされてきたのですが、そのやり方は一年中過不足なく働き、いつも朝5時に起きて夕方5時には作業を終える。農場のトイレは清潔で、納屋の農機具も整理整頓されていて、農業は1カ所で管理している。まるでGAPの基準農場のような管理で、まっとうで健全な農業を昔から続けているわけです。健全な農業だからこそ継続性がある。

それと農場の発展性という点では、人手を雇う発想がなかった時代と違って、農業経験のない人でも雇って働いてもらわないといけない。GAP基準の農場管理がますます求められます。

武田 確かに優秀な農業経営者は昔からGAP基準の農場管理ができていた人々です。ただ、優秀な人ばかりではなく、誰でも良い管理ができるようにGAP活用を全農家に勧めたいです。

銀座にレストランを開店 消費者のGAP認知を高める

昆 日本の農業は欠乏の時代を終えた1971年を境に、マーケットの時代に転換したわけですが、マーケ

ットの信頼を勝ち取る一番の手段は有機栽培というわけではない。まっとうで健全な農家・農場であることだと思えます。

そして2020東京五輪の食材調達基準を追い風に、武田さんは新たな挑戦を始められました。今年3月20日にオープンした、GAP認証食材を活用したビュッフェレストラン「グランイト銀座」の運営です。

武田 農家のGAP認証取得者は増えてきました。GAP総研としても2018年に新福秀秋新理事長を迎え、新たな目標を立てました。これまでの農家、JA、行政というGAP普及の対象に、消費者を加える。農水省の調査では消費者のGAP認知度が5・8%と非常に低いからで

す。GAPの認知度を高め、GAPの認証農場はいい農場だと知ってもらい、消費活動の選択基準を変えたい。そうした思いを胸にレストラン業に打って出ました。東京五輪は追い風ですが、レストランは五輪後も続けます。私のGAPとのかかわりもこの挑戦で大きな節目を迎えたと思っています。

昆 GAPの認知度向上を行政に任せようとは思いませんでしたか。

武田 行政もやっていますが、行政の活動だけで普及するとは思えません。消費者には楽しく美味しく食べながら知ってもらうのが一番です。ですからレストラン内での説明は三つ。「世の中にGAPというものがある」「東京五輪の食材調達基準に

なっている」「GAPは信頼できる農場の目印」とそれだけです。

昆 開店後の状況はいかがですか。
武田 まだ客足は安定していませんが、女性客を中心に満席になる日もあります。来店客の半分以上はGAPを知らない方たちで、ターゲット層は狙いどおりです。レストランが繁盛すればするほどGAPの認知度が上がっていきますからね。集客方法で注力しているのはインターネット検索です。「ビュッフェ 銀座」で検索すると、上位に表示されるレストランを指しています。

食材は150産地の契約農場から調達し、ネットからの食材提案も受け付けています。常時3、40種類のメニューを提供していて、過去のオンラインピック選手村で出されたメニューなどが好評です。

昆 店舗スタッフが多いですね。
武田 今はスタッフの研修を兼ねて多めに出演してもらっています。ただ、飲食業はどこもスタッフの確保が大変なんです。求人を出すと予想以上の応募数でした。お店のコンセプトに共感したという人がけっこういました。時代の流れと手応えを感じています。

昆 今日はありがとうございます。
レストランの成功を応援しています。

(構成/清水泰)



グランイト銀座の店内

Part2

JGAP導入——わたしの場合 農業経営に何をもたらしたか

安全管理の手法を スタッフ全員が共有できる強み

合同会社みさき未来（福島県新地町）

三浦一家はもと南相馬市小高区井田川で農業を営んでいたが、東日本大震災後、避難生活を経て新地町に移った。そこで、まだまだ浜通りの農業の未来が見えないなか、2012年から農業を再開。14年12月、一家の長男である草平氏はみさき未来を立ち上げた。

現在、水稲のほか、キュウリやホウレンソウ、ダイコンなど少量多品目の野菜生産、鶏卵養鶏を営んでいる。コメや野菜はなるべく農薬と化成肥料を減らし魚かすの発酵有機肥

料を使用したり、鶏は平飼いしたりと、こだわりのある経営をしている。一方、ふるさとの南相馬市井田川では、父の広志氏が畑作や太陽光発電事業などを手掛けている。家族が二つの農場を行き来しながら運営している形だ。

みんなで共有できる 安全な農業の形

福島県では、GAP認証の取得を推進するため、生産者に費用や指導の支援をしている。17年の初めごろ、

以前から注目をしていたところに、福島県から案内が来た父に勧められ、三浦氏もJGAPに取り組みことにした。動機は単に農産物の安全性をアピールするためではなく、もつと先の先にあった。

「これからの農業は、職人的な親方の頭の中ですべてが回っていて、周りには言われたとおりやるのではなく、働いている人みんなで共有できるような形にしないといけないと思った。農業を続けていくうえで、GAPを通じてそういった農業の形を勉強することはマイナスにはならないし、福島県が費用や指導の支援をしているので、良い機会だと思った」
まずはJGAPとは何かを学ぶために講習会に参加した。

「初めは与えられたルールを守るものだと思っていた。でもJGAPは自分でルールを決める。栽培から出荷あるいは販売までの工程のなかでリスクを把握して、きちんと対策をしておくことが大事だと分かった」
準備は大きく分けて二つ。書類作成と農場の整備だ。指導員のアドバイスを聞きながら、本格的に準備を始めたのは、稲刈りが終わった17年11月からである。審査を経て18年5月にコメ（粳・玄米）と野菜19品目



■三浦 草平

合同会社みさき未来 代表社員。1986年、福島県南相馬市生まれ。農業短期大学卒業後、20歳で自家就農。4年後に東日本大震災で被災し、避難生活を経て2012年に新地町に移り家族と共に農業を再開した。2014年27歳にして合同会社みさき未来を設立。

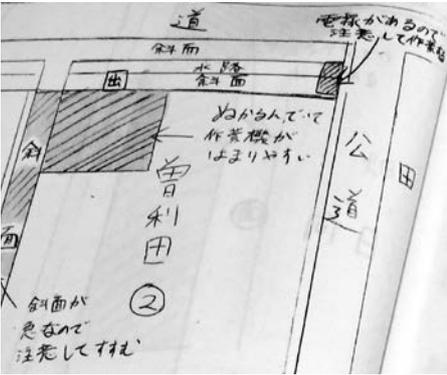
■合同会社みさき未来（福島県相馬市）

2014年12月設立。水稲（3.5ha、コシヒカリ・天のつぶ・こがねもち）、野菜14～19品目（ハウス5棟）、鶏卵（採卵鶏約50羽、平飼い）。役員・従業員5人（本人・両親・妹夫妻）。コメは農事法人組合浜通り農産物供給センターに出荷および直販。野菜は直売所や野菜ボックス通販。

■JGAP認証 2018年5月15日取得

穀物（栽培・収穫・取扱い）：コメ（粳・玄米）・大豆、青果物（栽培・収穫・取扱い）：タマネギ、芽キャベツ、ホウレンソウ、サヤエンドウ、ニンジン、パレシヨ、ナス、サトイモ、サヤインゲン、コマツナ、カンショ、カボチャ、ニンニク、レタス、ハツカダイコン、ダイコン、ハクサイ、トマト

「農場の事務をやってくれている妹



水田の危険な場所を文書化



畔周りすべてに畔塗り（黒塗り）している

現場でも事故を防ぐ対策をしている。水田では一般的に水漏れを防ぐために下位側と排水路側の畔2面に畔塗りをするが、三浦氏は安全な作業のために畦畔4面すべてに畔塗りをしていく。この辺りは比較的急勾配なので畦畔の法面が大きいいため、肥料を散布したり草刈りをしたりするときに転落して怪我をする危険度が高い。畔塗りをすれば、身を乗り

に、いろいろ怒られながら、せつつかれながら（笑）」
 認証取得後、勉強をさらに深めるためにJGAPの指導員の資格も取得した。
家族経営にありがちなリスクも避けられる
 認証を取得するためには、費用だけでなく時間も手間もかかる。そのせいか比較的大規模な法人が認証を取得しているケースが多い。みさき未来は基本的に家族経営だが、三浦氏は家族経営だからこそ潜むリスクがあると言う。

「家族は生活の延長で『なあなあ』になりがちだが、ルールをつくることによって、家族に対しても、自分に対しても、仕事では『ここは守らなければならない』と線引きができません。面倒だからと越えてはいけないうえ、ラインを越えてしまうと、とんでもないことが起きてしまう」
 とんでもないことというのは、食品の安全性を損なうことだ。出荷時に農薬に触れた手袋で野菜の出荷作業をしてしまうと残留農薬になる。また包装時に刃物や劣化したコンテナの破片などが野菜に紛れてしまう。器にはフードオイルを使用することによって、農作業用の潤滑油を使ってしまうと農産物の汚染の原因になる。

放射性物質による汚染防止のために稲を倒伏させないようにしているのはもちろん、農薬はなるべく数量を減らし、肥料も整理して管理しやすくしている。
 JGAPと云えば、食品安全のための対策が目ざされがちだが、働く人が事故で怪我をしたり、健康を害したりしないようにすること、つまり労働安全も大切な趣旨だ。
 「危ないなと思ってても、うっかりコンバインに人を巻き込んでしまったら、肥料散布や草刈りをしながら畔から転落したりしてしまったりすることがあるという例も聞く」
 三浦氏は、まず危険な場所と作業上の注意を文書化した。水田について記した書面を見ると、「斜面が急なので注意して進む」「ぬかるんでいるので作業機がはまりやすい」「電柱があるので注意して進む」など細かく書き込んである。

出して法面の下まで草刈りをする必要がなくなり、足場も固まるので作業が楽になる。
 「少しぐらい作付けできる面積が減っても、楽に作業できるようにしたほうがよいと思う」
 JGAPでは、自分たちが無理のない範囲でルールをきちんと取り決めることが大切だと言う。三浦氏は、野菜に使用すると井戸を設置したが、あいにく井戸水から菌が検出されてしまった。井戸水はコストがかからないのが利点なのに、除菌のために新たに設備を設けるとコストがかかる。そこで、出荷する直前の洗浄には井戸水を使わないようにし、栽培には使うというルールを決めることで審査にもパスした。また水田の用水路の堰板を押さえる土嚢には、新品の土嚢袋ではなく肥料袋でもよいという。

「法の遵守が基本だが、経営を傾けるような無茶なやり方までしなくてもよいと思う」
状況が変われば経営も変えていく

JGAP認証を取得したら、売上アップを期待するところだ。意外にも、三浦氏は販売先に積極的にアピールしていないという。JGAP認証を取得すると、ウェブサイトで



採卵養鶏場にも記録用紙を置いて餌や採卵を記録している

取得農場のリストに掲載される。これまでで4、5件から問い合わせがあり、結婚式の料理の食材や、ホテルでのイベントに使ってもらった。「JGAP認証取得自体が必ずしも収入アップに直結するとは限らないが、新しいものに前向きに取り組んでいる姿勢が目にとまることもあると思う。どちらかというところ、農業経営をもっと洗練させたいという気持ち強い。新しいことを始めるとき、見切り発車ではなく、計画を立てて見直しを持って動くのは事業として当たり前のこと。規模が小さいとなあなあになってしまうが、JGAPを学んでそれができるようになったのはよかったと思う。JGAPは文書作成など面倒なことがあるので、自分の経営に必要なと思えば取り組まなくてよいし、面倒でも必要だ

と思えば取り組めばよいと思う」2年後には、ふるさとの南相馬市で水田の作付けが部分的に開始される予定だ。離農者も多いので、もしかすると三浦家が数10ha程度の農地を経営していくことになるかもしれない。そうなるなら、これまでの経営規模とは桁違いになるため、三浦氏は、これまでの農業にこだわらずに、

資材の整理整頓が 食品安全と経営につながる

会津むとう農園（福島県会津坂下町）

武藤氏は、地域でいち早くJGAPに取り組んだ。きっかけは2017年の初めに会津農民連がセッティングした講習会である。GAPを推奨する福島県の支援も受けられることと、農民連の事務局に勤める友人が、武藤氏をサポートしながら一緒に勉強したいと言ってくれたことが背中を押した。その年の田植えが終わった6月ごろ、JGAP認証を取得している農場とはどんな農場なのか、新潟県の農場を視察し自分の目で確かめた。審査の準備は主に文書化と農場の整備だ。コンサルタントの指導も全部で5回受けながら準備を進めた。「とにかく大変だった。最初はコン

柔軟な経営判断をしていこうという覚悟を決めている。「これまで有機農業に近い農法で、野菜も多品目を生産してきたが、場合によっては経営ポリシーを変えなければならぬことも出てくると思う。規模が大きくなると、それを続けていたのでは、うまく回らなくなってしまうかもしれない。農業は、

農産物を生産して農地を荒らさないということ自体、公共性が強く非常に意義がある仕事だと思ってる。どんな状況が変わっていくかわかも、きちんと回していけるような農業をやっているようにしたい。柔軟に判断していくうえで、JGAPで学んだことを役立てたい」（取材・文／平井ゆか）

サルタントの指導を受けても、農繁期はなかなか対応できなかった。実際には12月ごろから審査に向けてバタバタと準備した」

精米は外部の業者に委託しているので、認証取得には業者にも審査が入る。そこで正式に委託契約を結んで対応してもらった。文書は農民連の友人にアドバイスを受けながら作成し、妻の綾子さんにも手伝ってもらいながら準備を進め、翌18年2月9日、無事に認証を取得した。

農薬や肥料の管理が 経営内容にも影響

「JGAPは基本的に農場としてやるのが当たり前の話ばかりだと思っ

た。私は、これを機に望ましい農場内の資材の管理をしたい」

武藤氏には、特別栽培米にも20年以上取り組んできた経験もあり、農薬や肥料を間違えず使うことには慣れている。しかし、JGAPの講習を受けて、管理方法も変えなければいけないと感じた。認証はコメについてだけ取得しているが、キュウリやヒタタケに使用する農薬や肥料についても取り組むことにした。まず取り組んだのが倉庫や作業所の整理整頓である。作業を手伝った綾子さんは、そのときのことを振り返って大変だったと話した。

「整理整頓だけで2、3日かかった。おじいさんの代から溜め込んだものがたくさんあったので、まずそれを廃棄することから始めた」

農薬については、これまでハウスの中にすべて一緒に保管していたが、ハウスの中にさらに保管用のプ

特集 日本のGAPの今

「肥料が汚染物質になるとは思っていなかったのです、これまで収穫した農産物の横に肥料を置いてしまうことがあった。それでは交差汚染が起きると聞き、作業所内を区切って肥料を置く場所を決め、そこに保管するようにした」

妻と一緒に整理整頓して大変だったのが、使い切らずに毎年どんどん積み重なってしまった肥料の在庫処理である。コメは特別栽培米も生産



JGAP関連書類



農薬保管庫。毒物・劇物の農薬を整理して保管

レハブ倉庫を置き、その中で劇物・毒物を保管するようにした。プレハブ倉庫の壁には「医薬用外 劇物・毒物」と表示し、農薬のケースにも個別に名称を記した。責任者の武藤氏の許可なく農場内外の人が持ち出したり、農薬を誤って使用したりすることを避けるためである。

肥料の保管方法も変えた。

「そこでまず在庫管理をすることにしました。業者から仮伝票で買い、余りしており、多収米を含めて作付け品種類も多い。使用している肥料の種類も多い。これまでどおり買っていたのでは同じことを繰り返してしまおう。」

「コメは、資材が変われば原価が変わる。原価が変わると品種選びや農法などの経営内容も変わる。いまは、品種ごとに10a当たりのコストと収益性のデータを把握して、それを改善するようになった」

こうして整理整頓から始め、わずか1年のうちに経営の見直しにまでつなげていった。



■ 武藤健一

1958年、福島県会津坂下町生まれ。20年以上前から特別栽培米に取り組んでいる。この集落では唯一の専業農家。妻綾子さん(60)と2人で経営。

■ 会津むとう農園(福島県会津坂下町)

水稻(15ha、コシヒカリ、ひとめぼれ、天のつぶ、ミルキークイーン、つきあかり、ゆうだい21)、キュウリ(ハウス:ロック栽培15a)、ヒラタケ(ハウス1棟)。コメは主に集荷業者や小売店に出荷し、一部直販もしている。精米は業者委託。キュウリは農協と市場に出荷。従業員:本人・妻。農繁期に親戚や近所の知人などに依頼。

■ JGAP認証 2018年2月9日取得

穀物(栽培・収穫・取扱い):コメ(粳・玄米・精米)

「たら返品して翌年に在庫を無くすようにした。さらに、コメについても園芸作物についても栽培設計をするようになった。そうすれば、あらかじめ農薬や肥料の使用量と有効期限を把握できるので、その年に使うものを使う量だけ買うことができる。こうして在庫管理ができるようになると、無駄が無くなり、コストの削減にもつながっていった。」

「コメは、資材が変われば原価が変わる。原価が変わると品種選びや農法などの経営内容も変わる。いまは、品種ごとに10a当たりのコストと収益性のデータを把握して、それを改善するようになった」

JGAPも現場で学ぶことが何より大事

武藤氏にとってJGAP認証の取得は、あくまで通過点の一つである。「作物は、味が良いことと収量性が良いことがいちばん大切だ。どうしても味が良い作物を栽培できて、収量を上げられるか、外からの情報を取り入れたい。自分の持っている知識は限られているから」

JGAPに取り組もうと思ったとき新潟の農場に研修に出かけたように、武藤氏は、他の農場の現場で研修を積むことが何より大事だと考えている。

「本と現場は違う。現場で学ぶのがいちばん。毎年、目標を立てて勉強しているが、研修で新しいことを学ぶと、視点が変わってさらに新しいことを学びたくなる」

キュウリのロックウール養液栽培についても、どういう環境が生育にいいのか、好適土壌pHの数字にするにはどうしたらいいのか、実際にロックウール栽培をしている人の農場を訪ねている。

今後のことを尋ねると、武藤氏は遠慮がちに「還暦過ぎたから」と言うが、これからも他の農場を訪ね歩く姿が見られそうだ。

(取材・文/平井ゆか)